

2024 年度第 1 四半期決算説明会（2024 年 8 月 7 日） 質疑要旨

➤ 鉄鋼アルミ（鉄鋼）

Q1： 価格・数量の見通しはどうか。

A1： 自動車向け数量で下方修正したが、販売数量全体では一般向けの取り戻しを含め通期では横這いと見ている。主原料の石炭価格は想定以上の下落基調だが、下期にかけ反動で上昇するとみている。なお、下期上昇分の価格反映は次年度以降となるズレが生じ、下期はマージン悪化要因になると見込む。主原料分とは別に固定費分の価格転嫁活動を進めており、転嫁できるよう鋭意交渉中。

Q2： 販売・原料価格について、高炉他社は悪化している中で神戸製鋼が前年比改善（+35 億円・前回見通しの前年比△50+今回見通しの前回比+85）になっているのはなぜか。

A2： 需要環境に関しては、当社固有の事情は特段ない。当社はひも付き比率が高いが、ひも付きはその他に比べて原料価格変動の価格への転嫁に時間を要するため、昨年度に原料価格が下がったことによるマージン改善の恩恵を受けやすくなっているのではと考えている。

Q3： 自動車減少に伴う構成悪化について、輸出比率の高い他社と比べて余裕があるのか。通期見通しでアップサイドがあるとすれば固定費分の価格転嫁か。

A3： 輸出比率は他社比で低いが、代わりとなる一般向けは輸出分も一部含む。価格転嫁は既にある程度織り込んでおり、大きな余地はない。

➤ 鉄鋼・アルミ（アルミ板）

Q4： アルミ板は他社ではキャン材が好調だが、コストや価格の状況や今後の見通しはどうか。

A4： キャン材は概ね当初見通し通り。自動車向けは数量減もディスク関係は好調。厚板は回復遅れでややマイナスとなる見通し。価格転嫁は固定費を中心に交渉を進めている。

Q5： 販売数量について 1Q 実績が下がっている中身は何か。2Q 以降で戻ってくるものなど、見通しはどうなっているのか。

A5： キャン材と自動車パネル材の数量が 1Q 実績・年度見通しともに減少している。今後の数量見通しとしては、自動車向けは全般的に下げているが、キャン材については特定のお客様との取引内容の関係で上期に減少、下期に増加を織り込んでいるものがある。

Q6： 足元の北米での景気減速やアルミ地金市況の下落による下期へのマイナス影響は。

A6： アルミ地金の市況は基本的には当社製品価格に反映させる仕組みであり、地金そのものの相場影響はほぼ受けない。ロールマージンの箇所は鋭意交渉中。米国景気については、アルミ素材の米国事業では影響が出る可能性はあるが、今回の見通しには特段織り込んでいない。

➤ **素形材**

Q7： コスト・価格の状況や今後の見通しはどうか。

A7： 自動車関連で減少し、半導体関連で下期回復という前提を少し下方修正したが、それ以外は前回見直し通り。

Q8： アルミ押出や鋳鍛など、製品別の見通しはどうなっているか。また、上期は上方修正の一方で下期は下方修正とした背景は何か。

A8： アルミ系は大きくは自動車向けと連動しており、自動車見立て全体に沿った下方修正と連動。チタンはプラント向け需要減少による数量減はあるも、収益性が向上している等で業績上の変化はない。航空機中心の需要環境は変化していない。鋳鍛鋼は造船がフル生産状況で計画通り推移。銅板は自動車影響と半導体回復見直しで下方修正の可能性あり。上期・下期の変化は各種要因あるが、段差は価格転嫁の進展と数量構成の回復によるもの。

Q9： 昨年度末に米国子会社の減損を行っていたが、収益改善の進捗は現在どうか。収益改善効果は増減分析の項目でどこに含まれているのか。

A9： 現時点では計画通りに再建に向けた改善が進んでいる。引き続き厳しくモニタリングしていく。増減分析の中では「その他」と一部「数量構成」に含まれる。前回見直し比だと変化はなく、前年同期比だと益目。

➤ **機械・エンジニアリング**

Q10： 機械：1Q・通期とも好調だが為替影響と受注環境の状況はどうか。また、円高進展時には、欧州企業との受注競争状況はどうなるのか。

A10： 足元の損益に関しては、契約は既に受注済みであり、為替による大きな影響はない。また、引き合いは旺盛で好調に推移している。ただし、長期で見ると外貨建てでの競争のため、円高は競争力減となる見込み。

Q11： 機械：見通しを今回上方修正しているが要因は何か。また、今後の受注積上げや採算改善に向けた取り組み方や伸びしろを教えてください。

A11： 上方修正の主な要因は、サービス案件など短期間で業績に効くもの見通しが伸びたこと。円高影響で海外での競争力の変化などは起こりうるものの、足元の受注状況は堅調に推移している。今後の成長という点に関しては、今の業績を構成する既存分野の成長に加えて、新分野への進出や M & A なども検討に含めている。今後、内容を具体的にお伝えできるようになった段階で都度公表する。

Q12： エンジ：上期・下期のバランス変化の要因は。

A12： 案件構成の変化によるもの。景況感に変化はなく、引き続き好調に推移している。

➤ **建設機械**

Q13： 前回見通し比で、地域別（日本・中国・欧州）の需要動向はどうなっているか。

A13： 前回公表見通しと比べ欧州・日本とも全体需要減により下方修正せざるを得ない状況。北米は需要の見通しは大きな変化なしも、エンジン認証問題後のシェア回復遅れで数量減となり、総じて主要地域で数量減となっている。

Q14： 前回比で台数構成が大きく下方修正となっている一方で販売・調達価格は上方修正となっているが、マージン改善のエリア別など、内容と蓋然性について教えてほしい。

A14： 販売・調達価格については、前回見通しのタイミングでは織り込めていなかった値上げを、今回一定の確度を見込んで反映している。地域別・機種別の状況については回答を差し控える。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。